

✦ イースター（復活祭）とは … ✦

2015年4月14日（火）
つのぶえ保育園（石田）



Easter(イースター)は『復活祭』とも言われているキリスト教の行事の中でも 最も大きな記念日です。2015年前、イエス・キリストは、イスラエルの国のベツレヘムという小さな田舎町の馬小屋で、信仰深い処女（おとめ）マリアを通し、聖霊といわれる神様の不思議な力により、ひっそりこの世に誕生されました。この出来事を覚え、礼拝する日が、『クリスマス』です。その後30歳までを、ナザレという小さな田舎の村で大工の父、ヨセフの息子として平穏に暮らしましたがそれからの3年間は、生まれ育った土地や家族を離れ神様の働きをするために 様々な場所へ行き、各地で大勢の人達に出会い、励まし、慰め、祈り、一人一人に生きる力や 希望、神様の愛を示されました。(=公生活)

ところが、旧くからの法律や慣わし、地位や名誉、肩書等に こだわる指導者や、頭が良いと敬われる学者達は、イエスさまのことを好ましく思いませんでした。人々からの噂や評判を耳にするたびに イエスさまが 自分達の立場をおびやかす存在として恐れるようになり、その思いは 妬みや憎しみ 傲慢や焦り等の 心の醜さを増幅させていき、遂には「イエスを殺そう!」という、人として赦し難い決して してはならない計画を立てるまでに 心が 歪んでいってしまいました。

けれども、この卑劣なたくらみは、あっという間に 周りの民衆までをも 巻き込んでしまいました。おびただしい数の 群衆と化した人々の 無責任な思いは、何の罪も犯していなかったイエスさまを 極刑である十字架に はりつけるまでに エスカレートしていきました。この群衆たちのほとんどは ついわずか一週間前に、熱狂的とさえ感じられる歓迎ぶりで イエスさまを支持し、大よろこびで 後をついて行っていた者達だったのです。人々は、イエスさまをほめたたえた その同じ心と口とで 平気で 憎しみ、あざけり ののしりました。まさに 手の平を返したような 愚かで弱い彼らの心は、何一つ根拠のない世の噂に 流されるがまま、とめどなく暴走していってしまいました。また 一方 処罰決定の権限を委ねられた 総督ピラトは、イエスさまに 直接、何度も 尋問を繰り返したところ 十字架刑ほどの重い罪など 一切 見出さず 釈放を 考えましたが「殺せ! 殺せ!」と大騒ぎする 群衆の勢いを 鎮めることは不可能だと判断し、この処罰決定の責任をすべて 民衆に負わせようと 『責任転嫁』という 人として最低な手段をもって、人の命にかかわる重要な決断を 遂行しました。

このように、イエス・キリストが十字架にかかられた原因は、御自身の罪や悪行によるのではなく 私達すべての人間が 本来持っている、心の弱さや醜さ、汚さによるものであったことがわかります。他の人への嫉妬心や劣等感、怒り、嘘や虚栄、陰口や争い、無責任や無関心、無視、暴力、暴言… これらはどれも 私達人間の心に内在するものです。

誰にでもある このどうにもならない心こそが、たった一つの尊い生命さえも 奪ってしまうほどの 取り返しが見つからないような 深く 重たい罪へと変えられてしまうのだと、はるか遠い昔に起こった この十字架の出来事を通して、自分達の心に対する 大きな戒めと 導きを 改めて知らされます。

イエス・キリストは、このように 罪深い心を持つ この世の すべての人間の 身代りとなられて 金曜日の午後、人としての生涯を ついに閉じられました。イエスさまが十字架上で祈られた言葉に「父よ、彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか自分でわからないのです。(ルカ 23:34)」とありますが、自分のことを否定し なじる人間達を 最後まで想い、神様に祈り、その人達を 赦し 静かに息を引き取られた イエスさまの心は、どんなに深い悲しみで あふれていたことでしょうか。この世に生きる 私たち人間には 誰ひとりとして 到底 出来ないことだと つくづく思われます。

亡くなられた後、今まで尽くしてきた弟子など身近な者達は イエスさまの遺体を お墓へ丁寧に 葬り、大きな喪失感の中で 不安や絶望感に襲われながら、それぞれに 時をやり過ごしていました。

それから3日後の 日曜日の朝早く、女の弟子達がお墓に行ってみると、そこには 遺体を包んだ 白い布だけが残されていました。まもなく 天の御使いから『彼はここにはいない、生き返られた』と 告げられたので、急いで 他の仲間のもとへ戻り その出来事を ありのままに 伝えました。それを聞いた他の弟子達は 当初、この事実を なかなか信じられず、受け入れられませんでした。その直後 手の平の釘の跡や お腹の槍の跡を見せて 現れたイエスさまの姿を 目の当りにした時 よみがえりという この事実を 畏れ 驚きつつも 心から喜んで『神の子キリスト』を確信しました。(新約聖書 『マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ福音書』記述より)

キリスト教は、イエス・キリストの この復活の出来事によって 始まった宗教といわれています。その意味でも、『イースター』は 最も意味の深い大切なお祝いの記念日であり、クリスマス以上に『信じる』ということについて、私達人間の心に まっすぐ 突き刺さってくるような出来事であり 生きることへの希望と 生命の尊さ、素晴らしさを 共に 感じ合える時であることを 思われます。

なお、このイースターという祝日は、クリスマスのように 日にちが固定された 祝日ではなく 【毎年 春分の日後の満月の夜の 直後の日曜日】とのルールで決められている『移動祝日』です。今年は 4月5日(日)に 全世界のキリスト教会において イースターを祝う 礼拝が 行われました。つづいて保育園では、新年度が 開始したばかりのため、9日遅れの 本日14日に 移行しました。先々週の3日(金)には、イエスさまが十字架にかかるまでの出来事を覚えて『受難礼拝』をまもり今朝は、その後の よみがえりの出来事を聞いて、全員で 復活の お祝いの礼拝を ささげました。

子ども達は皆『イエスさまがもう一度生まれた(生き返られた)』事実を ありのままに 受け入れ その 不思議な出来事の話をとて真剣な表情で、一心に 耳を傾けていました。イエスさまの身体が お墓に無く、泣いている弟子達の前に 天使が現れ 復活されたと 聞かされた 場面では「やっぱりね!」「死んでないと思った～」などと ロクに言い合い ほんと 安心しながら 皆の笑顔がこぼれ、瞳が キラキラと 嬉しそうに 輝いていたのが、とても 印象的でした。

『よみがえり』という、人には不可能なその現実を 神様の御業として信じる事ができなかった 頑固な弟子トマスに向かって「見ないで信じる者は幸いです。見ないで信じる者になりなさい」と 優しく諭された イエスさまの言葉を 静かに想う時、見えないからこそ 信じられることができる 心の清さに 今一度 立ち返りながら、今も生きて働き、見守っていて下さる いくつしみ深い御手に すべてを委ね、子ども達と共に 今年1年も また 心豊かに 歩んでいきたいと 改めて 感じました。世界中のすべての人々が、このイエス・キリストの復活の出来事を通して、神様の愛のまなざしを感じる事ができる日が 訪れますように…神様からの 平安と祝福を 心よりお祈り申し上げます。

★世界中のキリスト教の教会や施設では、イースターを祝し『イースター・エッグ』が 配られます。これは“硬い殻に包まれ 動かない卵は、一見 死んでいるように見えるけれど、やがて 新しい命が 生まれるという様子が、まさに死を克服し その闇に打ち勝つ 復活”というイメージに重なったと 言われています。つづいてからも 可愛い卵のプレゼントを させて頂きます。ぜひ、各御家庭でも この命の復活の出来事に お心を馳せて頂ければ 幸いです★ 主イエスキリストの 愛とともに★